

品質向上への取り組み

道の駅の活性化という当初の目標は軌道に乗りましたが、それに満足することなく、さらなる商品の品質向上に取り組みられています。コスモス会の品質向上への取り組みのひとつに商品の自主検査があります。

自主検査は、道の駅とうじょうで直売を始めたことによる客層の広がりとともに、野菜を購入した消費者からのクレームが増え出したことがきっかけで始められました。

それまでのコスモス会は、商品が安全で新鮮であることや、低価格で提供することを第一とされてきました。しかし、新たに客層となった都市部の人々は、コスモス会の野菜に清潔さや表示の正確さなども求めたのです。

そこで、粗悪品を無くし、品質を向上させるために、平成十九年



鷹尾義博会長
「会員同士が切磋琢磨することで品質を向上させていきたい。」



松本陽一事務局長
「新たな売れ筋の開発がこれからの課題です。」

から自主検査を開始することになりました。

検査は月に一回程度、抜き打ちで行われます。鮮度、価格、表示、包装、荷姿などの項目が厳しくチェックされ、基準を満たさない商品を出荷した会員にはペナルティが課せられます。

検査を担当する一人である事務局長の松本陽一さんは「厳しいとは思いますが、これも商品の品質向上と会員のレベルアップのため」と話されます。

さらなる挑戦

鷹尾会長、松本事務局長ともに、野菜以外の売れ筋の開発が、コスモス会の今後の重要な課題と考えられています。

「これからはお米の販売にも力を入れていきたいと考えています。東条地域と言えば山田錦に代表される酒米が有名ですが、お米もお



野菜作りから仲間づくり・生きがいづくり

左のグラフにあるように、コスモス会の会員数は設立した当初と比べると倍以上になりました。そ

して特筆すべきことは、これまでに「高齢や病気などの止むを得ない理由」以外で脱会した会員がいないということです。

その理由について、鷹尾会長は「コスモス会は誰かに押し付けられたものではなく、自分たちで自主的に始め、運営してきたものです。ですから、全会員が『自分たちのコスモス会』という思いを持って取り組んでいけるのです。また、コスモス会の直売所が会員同士のコミュニケーションの場となったことも大きな理由でしょう」と話されます。

コスモス会の会員の多くが、野菜を売るためだけでなく、他の会員との交流を楽しみに直売所に

「野菜作りは私の生きがい」

今年で九十一歳の大西勝さん(森)は、コスモス会が発足した直後からの会員です。友人に誘われたことがきっかけでコスモス会に入りました。

勝さんの野菜作りのモチベーションは「手間ひまかけて良い野菜を作ること」です。勝さんの作るこだわりの野菜は、農薬の使用量などの厳しい審査がある「ひょうご安心ブランド」の認定も受けられています。

ここ数年、野菜の出荷作業などの力仕事は長男の要

さんが手伝われていますが、商品の梱包、値札付けや売り上げの管理などは現在でも全て勝さんがされています。

「コスモス会に入ったことで、作った野菜を販売する場所もできましたし、他の会員との交流や情報交換が野菜作りを続ける励みにもなりました。これからも私の生きがいである野



まさる 大西勝さん(左)、かなめ 要さん(右)

菜作りをできるだけ長く続ける勝さんの表情は、とても生き生きと輝いています。

秋のみのりを食卓にとどける

秋のみのり感謝祭

道の駅とうじょうでは、コスモス会のみなさんにより、今年も「秋のみのり感謝祭」が開催されます。

駐車場いっぱいに張られたテントでは、野菜、特産品の販売や餅つき、福引きなどのイベントが行われます。

日時 12月13日(土)、14日(日)
10:00~16:00
会場 道の駅とうじょう

問い合わせ コスモス会事務局
☎090-3032-3472



会員同士の交流もコスモス会の魅力です。

来られています。特に高齢の会員の多くが、野菜を作ったり、直売所で仲間と交流することが「生きがい」と言われています。

野菜作りから仲間づくり・生きがいづくりという素晴らしい効果が生まれています。

野菜からのメッセージ

道の駅の活性化から始まった活動は、農業だけでなく、食の安全、生きがいづくり、人と人との交流、まちのPRなど、さまざまな分野に好影響を与えています。

「自分でできること」。それは、誰もが持っている力です。「地域のために、自分たちができる方法で、自分たちができることを無理なく続ける」。コスモス会のみなさんによる自主的な活動から、そんなメッセージを感じました。

大切に育てられた野菜のひとつひとつが、ふるさとをさらにパワーアップさせる方法を教えてくれているようです。

消費者インタビュー コスモス会の野菜の魅力は?



宮下きぬ子さん
(大阪市)

大阪市にお住まいの宮下さんは、お仕事で加東市を訪れるたびに、コスモス会の野菜を楽しみに道の駅とうじょうに立ち寄られています。

「都会のスーパーの野菜と比べると、新鮮さと安さが大きな魅力です。また、旬の野菜がたくさん並んでいるので、ここに来ることで季節の移り変わりを感ずることもできます。

これからは安くて良い野菜を販売し続けて欲しいですね。」



コスモス会の野菜の品質は、会員の努力に支えられています。

いしいんだということをアピールできればと思います。」

現在も米の販売は行われていませんが、精米・貯蔵施設がないため、出荷できるのは刈り入れ後の限られた期間だけ。これを通年にわたりに取り扱いたいと考えられています。

また、コスモス会の隠れた人気商品として漬物がありますが、専用の加工施設がないため、取扱いが冬季のみに限られています。これを一年を通して出荷できるようにしたいと考えられています。

その他にも、花卉や枝豆などの栽培にも取り組まれています。こちらも扱う量を増やしていくことを計画されています。

これらを軌道に乗せていくのは決して簡単なことではないでしょう。しかし、鷹尾会長は、「今まで野菜の直売でやってきたことを、他の品目でやるだけです。基本的